俳諧水滸 宇治拾奇人集

前編 下

中村俊定文庫
文庫 18
1035
2

水滸伝譜字かなと奇人集巻之下

東都　青林亭錦八著

飯倉　清元壽美太夫

○

汝先、丹社　鰥　らうらうへる

茶番の名人くみて　施升といふる人　小町姫と

かすり　壽美太夫　関ちう衡と　なりて　関の戸の　狂言を　理くるる

処　ちやや　四面　ちくりうく　ちくれて　幕　ぬが　四面　よの　桜の

大木　関ちう衡　宗関　元　小町姫　かるる　山路の　浄瑠理み

て　ぢの　振事　稽古　ちめる　捉　陽ぶ　悪の　風　答れ　涙て　下の

巻　かりうる　関ちう衡　ちる　生　酔　ふ　巻　紙　とり　盃　りうる

果　をうて　「汝　巻　中に　猪果の　狂　寅の　一　二八　今　内　今

霜ハ二百年ホ余ふこの梅ハ切て獲度おもひ玉ふ
の塚の神を祭るべきの大願成就ハ心の中こと白眼ゝ新
月の糸切て蓋の中れ荷もべ見物悪口ハ「ヲイ白玉い
一指いとゝぐ

○

さてゝゝ三の猫よこ平貞まて　品川　文治

佐名木の美ゝ平ぬの羅紗青のいやとゝ「アノ隣ざゝもで
豊後節ハ澄るのハあんとゝ静間ぢや「アイ升屋乃
客の客さんぐらゝ文治ハ「ナニ文
治こいかゝいつぞや羅紗ゝ茶こ文治でわらう なの文治
あらつゝやどまいあもおぬ羅紗ハ長こ
ゝきい親ぐまゝやさいゝ退を貰ゝて なの文治まい羽織

ぎやの羽織ぢやの四番ゝ羽ゝ袴の紋わきぢやさゝん
ゝ屋手ぐゝひま升ゝトいよに隣ぐゝなもわけとバ口ゝけゝ
ホ新ゝ入まゝ文治の客ゝ客ゝ「アが文治ゝふゝの紋あい
文治ゝの為ゝ違ゝてかる ぞへゝゝモ。ゝぷゝとやゝゝいぢや
ゝゝの意こやゝゝの茶性ゝ紋すゝ挑文治ぢや

○

さてゝ出 だむ 歳紋 かゝえけふ　品川　長門屋菊之進

武 名ゝ上ゝ猫ゝ長ゝ小 義紋 御ぐ長さゝ 多へ千ゝ家の客
来 山門作茶番「コヤ茶番こを 行紋ゝて居ゝ「コ」ハ見物入ぢやい
ま 減ホこの酒ゝお豆ゝお豆ゝ毎日お学ゝ升ゝいこ
ゝゝ長ゝ升 美ゝ見ゝ客さんゝ大体業ゝてゝ見ゝさる業ゝ屋ゝどざ
いません 日ゝを 今日ハ 古の通り 女ゝ 長ゝ ゝゝ

「ヤ　[illegible]　[illegible]　[illegible]

の歌に実の後撰にいつてんとて喜多男子「コレハ方法さん
待生業中と実みをつくしの通り女の子孫ちぐさ
ぐさの中下 徒間程遠きの月の宗に玉のごとき男子生れるべき
徒の一方の桜を喜び横物をもて今ハ孤生月のもの賛る
とくや古今集の序なも力をもて入ぐ〳〵天地成動とも
宜形見て云

○

下ぐさ和尚ハ公を慰むる 品川 清元澤太夫

遠ふ浦の名所ハ柳の名所に殿山の塩を庭中に敷〳〵
入相の鐘ハ庵に尋ねて嵐しいる通者「ちまの山高
ふ「コレハ旦那ぜんを合ハ「ちと
初年ぶ年ぶ清風ぶ〳〵ぶ繁の引ぶ〳〵ぶ〳〵ヤ

みぐるまで ごぜ人やに今ハ棒ぶで 谷山桜ぶの若〳〵と 二八枝
道式ぶ〳〵ぶ中〳〵ぶ あんと 繁ぶ 二八枝
へさうさ二八枝道も 風ぶ 中〳〵ぶ 中〳〵ぶ
と云の枝過ぶ 実ぶ 一重ぶ 三重ぶ 桜ぶ 文ぶ
義理に迫つく 恍惚ぶ 裏表式 一冊ぶ ごぜ
ぶ 今 流ぶ 流編ぶ 合せて 上下に
ぶ 中 ぶ 中 ぶ 中 ぶ 中 ぶ 中
一冊の剣 行道 二冊ぶ 上下

○

祇馬藤の酔ル 吉行 清元千代太夫

寄今まで二ツ横町 高砂の 月 山王番ぶ
上ハ義成薩ぶ 瑞垣ぶ七ツ半ぶ 入相の撞ぶ 死ぶ 大いハ「ヨイ千代

湯島

さんい、訳でも達申さ「コレハ恵方さん」夫る訳でお国みかりゆゝ
「時みそ清兵衛軒の長屋」結ぶろ
ぶ出ふ「さゆうかゝ、こゝろ中せうト夫て
ゝ出ろけゝ夫破れの事中へ参る
「且那ゝ名ゝ出ふ用ろ出ま
「ハテ病かろゝ」呼に来さのゝ「イエ
ゝ出ゝで言くも浮ゝ「まアさ
でいゝぶい「ごうも実でいさまさ
云ぶい「きゆうかゝ出新造さまぶ出ま
ぶ出ま

湯島　清元喜代太夫

○

見すすま新　風のみと花のさそひ人
思ひ岡小名も立ま清水の見人勢の
桜ひさい花のゝ江戸前江戸子

の浦ゝね気性九の面　舞夫様と　暮ふぶゝふ　洋和　座敷の一間みい
ま「コウ清さまのさんけのゝ古の国舎の前ぶ　初めくの江戸見物ぶゝう
上野のゝ衣紋コ出せうと思ゝく来
そまてみ立に達さのぶ行ゝう様ゝい「ま
吐ーの天ゝへ大事を出ま「時み見形こ
ゝへやせんそりやアモウ亭主の金さん
巣を江戸一ぶゝぶへやを「さうさこの
さゝゝ吐ーみ実ぶ入ゝく忘ま中ぶサア
茶式浴ぶゝトゝぶかの国舎者「ゝ
ゝ花の雪積を上野ゝ清茶紅大恵大恵の観世青流ゝ丹三縁い

湯島　清元千蔵

○

乙島むらく　ふ　ふゝむ風
花の雪積を上野ゝ清茶紅大恵大恵の観世青流ゝ丹三縁い

一寸八分五分でも遠のきの野墓に悲しう駒ぐらう、雲ぐらう雲ぐらう
も青柳のかつよ太鼓に持まへの人の、禅虎の皮角力に屠さ
風神の面と東の大関に華紅と宝石の嘆の簾の小くらう伽藍の
土俵み隨神門四本柱の山門みは四十八手の平重の塔こまぐれ
張りみ猪ぐらう〳〵酒判の口に捷のさく稲穂のこまぐれみ千の花
と連〳〵ぐらそ糠〳〵呼通人「コウ千と花子ゆく〳〵ぐんれ」紙ぐが
いつめやアこまの前の酒ぐるこ新ぶるうの〳〵金具つけきく〳〵三年がうる鶏
酒ぐるこの異見ぐうう今日ゲ酒の飲酒ぐテ「そらいつァ異形遠ら
新人まけぐれあん〳〵三年の所成六年あ〳〵夜陽ぐやアぐうぐご
ぜへやを「ちげつ新へそんまら古年の所成十二年まして夜盗のまうう〳〵

雪門の歌仙

○

夏の夜の和み哀れ成れ　橋場　川口おあ成

滅〳〵呼ぶ人ぐ新う神財文橋場今戸に三堀魔く猪ふ
風社果へまけうう〳〵ぐ麻耳よ近き夜絡れ社出決可
嘆〳〵十ぐうまらや閑内のうう社〳〵に社〳〵ね門にのぐ屋ひの
夏ぐ〳〵ぐ泉の内泉の洗ぐ赤ぐ〳〵仏の事〳〵ぐ通者女魔去
し都間入新ぐう酒豊に武ぶ二方の羽ひ〳〵て三井寺の治と
高新に「まう〳〵や社ぐ社ぐ社ぐまう神夜の鬼ぐ人〳〵よ頃仏のぐと見
ぐや洗の新ぐも静ぐまう神夜の縁と接時い清行と光常と郷田也
麦夜の縁と接ぐ接時い昼生滅法〳〵ぐう晨朝のぐうぐ山2
滅滅己入相ぐ寂滅為楽〳〵ぐ酒異のう〳〵の一に浸可
及ぐ〳〵「大魔ぐ多濁み面白ぐさのまう〳〵よトぐ〳〵ぐ中に女魔去
のぐ〳〵形「ひのぐ社ぐん今の道成寺に押〳〵ぐう孫〳〵

○

清水の社を過ぎ小砂川町を
門前の茶屋の角屋敷軒の遊女春過く漸に通に芸者
池の端仲町より吉原の時分の時分に成て泡
盛に成て聴こゆる。是ぞ。堀へ糸竹の調を流して
みせうと「ヤ騒しうございます」仲の町の茶屋へ
ひぐらしございませんかと仲の茶屋へそんあり是ぞ
鶏鳴に成て又せうに仕く淫でいつもの手曲に導てみせうと
「ヤ」まんざらもサアお堀へうらッまより鶏頭へおのくりて
廓あの松の根元の茶屋の庇縁の面くち柳桜和歌
堀の作法も稽古下ゝ座より上鶏ちまくに水仕も欲
て茶の湯にありやくの数巨高く楽上るの色に捨
海堀の社あて「針の先に用いどあるでございます

品川丁

品川

三光新道

雛

「ハイ」こちらへでございます「ハイ」日傭
さとりの専助さとりの専助の今
朝京川まで乗りましたこと「そんあり
専助さんの駕りまあ「ハイ」日傭
私ども借ぶしてあのどなたかいらっしゃ
「ハイ」乗めりこちらへでございます
あら一所でも淫こと乗りましたこと

餅みちゃうまあとをつ靜かなる　浅草　茶利　新

○

角ちらつへらふ茶湾ふく客隅田川ふ遊んと如意者のお客と

一つ茶のおつまみ酒ふ柿稿より一の格現へ永とつけさせ

茶利屋ふ手ふみやりつるる折らくふ居合せ彼と土産ふ

まり揚の者厂本へ押出ス時ふ客ふ「茶利やらくる

名ふみ〜ふひそとろ〜男ていふ屋下ざとろふ今日一日ふ一口と

酒ふ屋でいそひふ居るふ小僧と

めつさ幸ふいつと出方へ主人分ふ

けりゃ「あるわどそつア尾も白ー頭も白く蘭ふの赤いぐ

出方所の名物一番のいく都ふ「さらつふの下ふ〜そとでやつけ

ふへふふそとぎりく〜ふ向ふふ遊びあるまーが茶利屋と

お様の口ひふ出ふ上りしわく盃ふまでふ幸

抱せーが揚屋や懐中ふいそぐく今ふ屋ー宝ー目録

主方揚屋の助ふいーまふふ酒肴を敷ーの色ふ沖

巻ふそそぐさらまー

○

月ふ出るまでふ手持ちふせて　十寸見蘭洲

蒼屋ふ長き女へ芒もいぼくっ横ふ知く尾ふの

美妓浅妓の藤袴撫の〆蕾邪枯梗の色ふ弱理

猫新ふ子ふ猫ふ屋ふ仲ふ傷ふ子ふ橋姫

の名乗ふ昔ふ撫ふひつくん伝ば隅田の都ふ

ふくをもりふ寄ふ遠ふ猫遠隈秋の淋しふ

も四ふの子草に風の浪ふく洗ふ白蓼ふ

けるゝ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]孫ふて[illegible]ゝる[illegible]へ[illegible]
四人[illegible]の「[illegible]」[illegible]ぶ[illegible]ゝ[illegible]ぐ[illegible]升[illegible]「[illegible]」[illegible]の[illegible]
でもぐ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]料理[illegible]「[illegible]」[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
のゞ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

○

[illegible]しの[illegible]秋[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
千門萬戸[illegible]酒色を[illegible]き美[illegible]
市場の[illegible]昌酒池肉林の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

中橋　岡本重兵衛

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]男しつふさうでござい弁が実小いる去い[illegible]して又る
より原吉原の隠くく[illegible]つんまび[illegible]
[illegible]ふくるるんび多い性嘗して[illegible]形眼い[illegible]
蔦籠も侍句の清ぐくきと嘆しじて生涯富士の白ちござり
せんと咲し長る[illegible]へ浮まり「見[illegible]城湯やうくおつくきなが
つんえ弁くくさどおるる士さまくくい城湯やが国の下に又えまれ

木原店　富本大和太夫

○

低多お桐のすくみる去籠

鎌倉の南小雪川く放乙蕩軒の街あり名ちてこと家
品川宿くくの海道秀くくる五拾二次の初宿あくく辯まる
[illegible]の嫖客も此郎み遊んで一夜の歓楽千金ちらぬ
十王の契あい浦表弁絵くく新舞の別を惜む松風楼乃

朝ばり「モシ」忘て唐寺くくよ嘘を深ときちまいうくさう
して客の内ち蔵人が忘嫌いくくいの顕ちうあくして生ちの世
間も具彩さんが又客人も行ぐくく[illegible]用達の[illegible]代
ぐくくくておいくよと寿を惜しげみ送り生ち表をぬく間の忘さ
浦塩弁主の蒼具蒼又くく他人の宣伝よくくくさものぐり客
人ち富本の大和大夫にくくくく長ふ

永代　富本いろは太夫

○

雪の宵もこのかりふ遠しくくく
[illegible]呼くる時れ[illegible]人間ちに来りくいひけるふ
又[illegible]さんも見本橋へ出張[illegible]吉弁あさい弁くと宵又房
ちりふやう知ろく此まくくり内み長奴夜の[illegible]しん彼[illegible]に
陽[illegible]と拝へくくみ相達ちくくとその[illegible]日行て又[illegible]

たいそうらくる門のあけるを旦那の恨めしく猫ばかりまゝ来れば
ゆくゝみるもせじ内へ入「權さんを宅へ此ゆかちなさい
ませうね「ハイ此家でござい升が今日いかゝ様に参りました
シテ甚だ恐れ仰ようゝ知らるさいまゝ「ハイ私ども權さんの妻でご
ざい升が積ふ恨ゝ紙やに参りましたゝいふに此方も驚
さるゝ拙夫も他ん隠妻のあるゝよと互に嫉妬の恨の数く
いひ募りくゝも何ふ中ら苦合せるの家けまで「ア高なふも
權さんとゝつもゝるゝ方がみて井がモシヤ間違でいでございませんか
「ハイ私ども夫の權ちゃんの妻でございます井「マ、立そ互で分まゝ
ばゝゝの宿を常磐津でござい井

○

いとうえゝ　うゝゝゝ　和倉　富本安和太夫

家中何の某の四季の浦ゝ花川戸才智の恨の中間狂ふ「男の
繁昌繁ゝく拙拙ふゝゝ　向者さる
浦ちゝ乳に曲ゝく　流り玉さんとう
を流りゝ男ゝ浦さんと小町ゆくゝ乳に曲ゝくゝいひけまで「仏きゝ
嘆家計上ん火鉢を孫ゝ　嵐姫の火ざらう

○

小夏かもめ　葉研堀　富本志賀太夫

相別浦笠の何ゝ赤ゝいゝる大家ん
宮ふ体く四方の拙ゝ墨を泳ひまで山の水の墨ん
ゝる都ゝの言のゝ墨ゝの三国川ゝ墨の山も今ゝん遥際海乃浪

の[illegible]砂の今[illegible]瑞西く月も入[illegible]よ[illegible]の[illegible]に[illegible]悲く[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の長き[illegible]
分[illegible]の[illegible]の道を[illegible]で同じ[illegible]
[illegible]の[illegible]の政[illegible]て[illegible]
春辺「[illegible]さん私もそちらとおもふ[illegible]
「そんあ[illegible]是が[illegible]
[illegible]ね「さ[illegible]角世の中[illegible]
[illegible]交り[illegible]
[illegible]

○

君[illegible]を　[illegible]社　遊びや　露月町　常磐津若太夫

谷取[illegible]十人門弟　八十余人[illegible]の浦[illegible]集[illegible]の[illegible]曲[illegible]美[illegible]門

[illegible]人[illegible]中[illegible]男[illegible]の男二[illegible]人「[illegible]源次此[illegible]の[illegible]さんの
[illegible]「[illegible]
[illegible]
[illegible]

久しぶりにお逢みなされ家子の門と長松とを招くと「ヘイ
市左衛門でございまして誠御無沙汰をいたしまして面目ない御法度
「まやお師匠さんお師匠さんがお出なさいまし〳〵よト呼に来よう障子
を開く「コレハ市左衛門さんよくお出なされまして上ッてお出し〳〵
さいまし〳〵今日の御用向ハ何事でございまして「ハイ茅場町の不
動さまへ参詣みに参りまして「まやさうでございますアノさんやかも
お要用がありまして棚にある鳥羽玉と裏屋と持て来なさいやア
さうとお師匠さんもお宗旨ちがひ「ハイ左様お母さんお師
匠さんの所も同じ一向宗ゴザ

堺町　常盤津松尾太夫

寄も密様は馬につけ出し
物所の琵琶亭に住居をあるとゆへ食せざるべ味ひ出 松尾

太夫の浄瑠璃住ゆへ聞ぎふ時ときの是非知らぬ
聖人の教えを受く琵琶亭に撥ぶやの花もとて唐物屋の
一時に見形あるふ業ゆがございます「まんざ「外乃事
でもございませんがさるやの持ちいらの高門さ筆ヲ唐物のこと
ものでは面倒なれ其平に俺を入て上みあんで出
えんませんくいくふゆ寄ものでと御順公頼門さうえ金の
出さ物ざこと人々えて具形も惜んでございさ廓くのこと
ま弟ひが行でも唐の住道具でこと弁がありやアモンかでございや
と聞ば元ち稽古抱こく笑おし「コウ松尾さまそりやア唐の巻入ぎ

日ヶ窪　岸澤文左エ門

俳名武蔵人とゆく雪門ゆ撥ぶと久しく武州路ことゆ勤義

侍りけり「イヤ皆人さん此只今軍の最中なれ共の衆議判の開み孫鍋しぶか
江戸の俳諧ハ不俗とも是元でなくてこそ〻ん深み全
然成かけらまてこうゝイヤ其一言ハ弘のサ此只もさる人の義しとゝ
点面ぶ流ゝ皆流て懸やはしく〻ぶ十二編摺の今〻でこぜ人やしく生開み めしたやしく
東ぶ出申上「百負ぶ〻ゆ〻て和も二三句陪やしく「アア其手を義り
こい三テ行しゝ陪でこぜ〻か「方桜花迎の風〻分やしくとゝいこば
戻りふ芳〻ふ蛤。辛清の樓ふ吹迎の風〻分やしくとゝいこば
悟く考〻「こ辛清〻ゝ清〻ゝ清〻の故生ぶこぜ〻升〻か

河内こゝ事弘年〻〻〻〻〻　高輪　荒　八

俳名成撞隨〻〻持句さまぐ〻年〻「後行のゆ〻でも梅の子

繊〻和拜〻〻〻〻結程かり　後〻〻〻〻〻

初め目黒人参漬せんと集めしかねど不堪の死の花乱
ろく流れて流れ〳〵山吹の水に浮かれ〳〵やうやうきく〳〵
と下り雉子の宮の門前を通りかゝるに十四五歳ばかりの童子
主婦へ連れ立ちたるあるまの毒ふかりけるまゝ伝兵衛の羽織を
伝へ〳〵連の男女頭けに捕やまぶ童子の牧ぶるの限りを
行んとゝゝゝ不敵童の悪まれり「浪やぶの伝兵衛さん不揃てゝゝ
「あのお母ゝ向ふ横町の絵切を買ゝゝ

根芹の流れを橋ゝゝゝ　亀井戸　仲　五園

此人画工なれども世俗に疎く富士を描ぶ松ふたの巻中に若ゝつ
浦対岸の画図ゝゝゝ在の蜘蛛来りゝく「見給さる画ゝ
りつゝ夜ゝゝゝゝゝ影城内金で安ゝゝゝ

どさり升うね「さるぶさ昔雪舟ゝゝ人を幼時より画を好ゝ
羽織ゝ長勢にすゝゝゝ師匠不縛ゝゝ
ゝく前ゝ蔵ゝ用ゝ以ゝ見の猫ゝて嵐ゝゝ
出て縛の縄を咬狂ゝゝゝ天下ゝゝゝ
人の一ゝゝ拾ゝゝゝゝの日の狂ゝゝ
ゝ胡蝶来り「見給さる画ゝ
は蝶ゝ接出ゝさゝで蔵所のゝ探を咬ゝ

此猫ゝ沸ゝ五十四人の酔ゝ
出て抜ゝ徘ゝ蝶を猫ふにゝん

宇治拾遺奇人集巻の下　終

江都　青林亭藏版

[illegible]に関あるを今東都[illegible]通子の[illegible]す源氏の酒樓[illegible]
[illegible]と来[illegible]に[illegible]

○酒樓の部

紙中甲乙丙

梅川	甲子屋	横和屋	トいつこ	万後	梅川
惠清	八百吉	海老や	梅屋	海老や	惠清
青柳	金波楼	扇屋	中きく	惠屋	青柳
青柳	田川屋	松坂屋	かぎ屋	三ツ目屋	青柳
川長	玉元	蓬莱や	川安	宮鶴や	川長
小金庵	巴屋	桜井	伊勢宗	川福	小梅
大七	玉や	東屋	清水楼	梅屋楼	大七
武蔵や	平伝	瓶江亭	藤屋	伊勢原	武蔵や
平景	三清	茅場や	中文	一力楼	平景
梅宗	和泉屋	松や	藤屋	山田屋	梅宗

宋や	平清	東風屋	山本	百尺楼	
武蔵や	小池	伊勢や	五井や		

○舟持の部

鈴乗や	石丁	梶や	新吉川	梶や	和田屋
二見や	白子丁	いせ九	吉川	新吉屋	鈴屋
丹波や	万丁	万本	万丁	中村や	川福や
桜田や	長崎丁	小梶や	清屋	坂口三	半平や
いづ屋	両国	浅草	吉田や	大七上総	加賀屋
尾張や	新橋	大和や	坂の屋	小網丁	松や
きり屋	東橋	遠州や	和泉屋	中村や	伊勢屋
半武蔵	坂	竹屋	すぎ屋	丹丁	大松屋
一川や	新橋	濱や	山一や	伊勢や	梅屋
玉松や	尾張	宮の大屋	玉や	富屋	梅屋
伊勢や	大武蔵	村田	上浦や	梅屋	梅の屋

大坂下	三浦や	三条下ル	恵利や	祇園下	吉原や
清水町	大坂や	〃	麦屋や	〃	〃

○茶店の部

五条橋	手すりや	夫婦つれあり	丁子屋	産寧坂	宮路の里
〃	若つや	〃	鶴屋	〃	小羽義義
やぶん酒	はるや	堀川	花やき	〃	七ツ田
三条大橋	第義宮	三条寺一	玉川	久保寺	那口
天王社	大和や	花寺	竹きり	金寺	安民橋
四条橋あり	三河や	祇園社	鶴つる	宇治川下	恵や
〃	松の尾	西寺三	こしぶき	祇園あり	いづ屋
〃	義川	中ゆ	小川	志賀橋	山女
新橋	清合	〃	かん菓	〃	尾や
東本願	義代瀬	義寺二	言橋	七條	東や
金毘羅宮	稲や	四条	美松	〃	坂女

祇園下	吉原や	宮原	山猫や		

〃	丹引や	一条橋	松の尾		
〃	伊藤松	東寺	泥の尾		
〃	安むら	高野橋	紙乃		
南	松川	東寺三	森の尾		
金つ山	中路や	七条寺	ゆう所		
〃	雅美	今宮社	宮治里		
〃	遠引や	祇園清水一	山吹		
〃	小川	祇園あべす	大和や		
〃	伊豆女	東代橋	高尾		
〃	小倉や	蔵草ノ和	大吉		
〃	ますめ				

中村俊定文庫